様式3

令和４年度　学校評価書　（　計画段階　・　実施段階　）

学校番号 67

福岡県立大川樟風高等学校 （全日制）

自己評価

学校運営計画（4月）

学校運営方針	まち全体を学びの場とした教育活動をとおして「人や地域とつながり、未来を自ら創造できる力」を育成し、「志学・創造・貢献」の校訓のもと、何事にも全力で取り組み、地域を支える有能な人材を育成し、地域に根ざし、地域を愛し、地域に愛される学校づくりを目指す		評価（総合）
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標	A
[成果] ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、多くの行事が中止や変更を余儀なくされる中、各分掌や学年が連携し、多様な進路の実現や部活動、資格取得等において素晴らしい成果を上げることができた。またICT教育の環境が充実し、学習支援アプリやZoom等の利用は定着してきている。 [課題] ・令和4年度よりの新教育課程と3観点による評価（『知識・技能』『思考・判断・表現』『主体的に学習に取り組む態度』）を実施しながら、生徒が「確かな学力の定着・向上」に繋げられるような評価の検証と改善。 ・生徒募集活動をより一層充実させ志願者等の増加と校種間連携事業、地域との連携の強化。 ・部活動やボランティア活動等の諸活動を通した自己肯定感の涵養。 ・キャリアパスポートを活用した系統的なキャリア教育充実のと情報提供。	1　自分磨き （笑顔で挨拶、爽やかな清掃、ボランティア活動）	○いじめや差別のない環境づくりと人権教育の徹底 ○安全に対する意識を高揚させ、校舎内外の環境整備 ○「立ち止まり・一礼」運動による礼節指導の徹底 ○社会人としてのマナーの育成と規範意識の醸成 ○保護者と学校が一体となった教育活動（校外指導等）の展開 ○地域行事や活動へのボランティアとしての積極的な参加	
	2　ICT教育の推進 （授業が変わる・授業が分かる・学力アップへの道、学習支援アプリの有効利用）	○学習支援アプリの活用法の定着 ○ICT機器を活用した授業の工夫と改善 ○ICT機器を活用した授業実践に対するスキルアップ ○確かな学力の育成を目指し、わかる授業の工夫・改善	
	3　魅力ある活動の充実と校種間連携の推進 （生徒中心の学校行事、部活動、高度資格検定取得）	○生徒会を中心とした学校行事や生徒会活動の充実 ○部活動の活性化及び校種間の連携活動 ○部活動参加率・資格検定合格率の増加	
	4　キャリア教育の更なる充実 （進路の手引きの有効活用、着実な進路実績）	○段階を追ったキャリア教育の推進（キャリアパスポート） ○進路の手引きを活用した積極的な進路指導 ○生き生きとした授業や有意義な課外 ○各学科・コースの特色ある活動の実施	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価（3月）			次年度の主な課題
教務	ICTの積極的な利用を図り、主体的・対話的で深い学びを推進し、授業改善や基礎学力の定着と発展的な学習につながる知識の理解、技能の習得	電子黒板、無線LAN使用可能教室、視聴覚教室の効率的な利用のために、学校ポータルを活用する。	B	B	A	本年度より始まった新教育課程による授業と観点別評価が1・2学年の2学年で実施となる。本年度実施したものをより改善して、主体的対話的で深い学びに繋げていくことで、本校が目指すべき生徒像を達成できるように各学期末（年3回）に教科会を実施し、授業改善を行っていきたい。特に次年度は新教育課程に適応するために、定期考査が学期に1回（年3回）にして、授業時数を確保することにより、きめ細かい指導や評価、また協働学習をより増やすことが目的となる。1人1台端末も導入されることで教員側の授業改革も求められる。そのため、各教科・科目ごとの入念な計画や評価態勢が必要になると考え、年間指導計画の改善や評価方法について生徒への確実な伝達などを教務課が中心となって、各学年・教務と連携しながら進めていきたい。3学年では仕上げの学年になるため、学習指導要領やグランドデザインに則り、社会人として、かつ進路実現を目指した授業作りをよりいっそうしっかり行っていきたい。 校務支援システムでは、特に観点別評価の入力をスムーズに行うために、作成したマニュアルの見直しや、各学年教務を中心にICT支援員等と連携したケーススタディを長期休業中の職員研修会（年2回）で行うなど、対策を考える。
		スタディサプリの活用の仕方について、キャリア教育課と連携しつつ授業の充実に努める。	B			
		観点別評価等を活用し、生徒の実態に応じた公正な評価を行い、基礎学力の向上につなげる。	A			
	授業規律の徹底を図り、主体的な学びを心掛け、きめ細かな指導の徹底	教室整理や授業開始時の着席指導を徹底する。	A	A		
		遅刻・欠席が多い生徒に対しては、学年・生徒指導課と連携し、対象生徒へ指導を行う。	A			
		成績不振者への事後指導と共に、考査前の事前指導についても学年教務を中心に強化する。	A			
	新教育課程と進路実現の結びつきのある授業計画・実施・検討と、観点別評価の効果的な運用と検討	教科の特性に応じた観点別評価を行い、本校生徒に応じた評価基準を更に検討する。	A	A		
		各科・コースに応じた観点別評価にあわせて、年間授業指導計画・教務規定を改定する。	A			
	教務関連書類の内容や様式、手続き等について見直しを行い、効率的な教育環境と業務のスリム化の実現	出席統計などの統合型校務支援システムの円滑な運用に努める。	B	A		
		教務関連の業務を分担、見直し業務のスリム化を目指す。	A			
企画調整	他分掌との連携	他分掌と連携して、学校行事における企画補助を行う。具体的には、図面作成や掲示物等の作成・管理を行う。	A	A		次年度も他の分掌と連携しながら、ミスがないよう業務を遂行していきたい。イルミネーション設置については、今後の方向性をPTAの皆さんとしっかりと話し合いながら行っていく必要がある。コロナ禍、できることを工夫しながら行い、PTAと学校が連携し、地域に貢献できる態度を育てていく。
	行事予定作成のための的確な情報収集	教務課・生徒指導課・キャリア教育課をはじめ、各部署と連携し、正確な日程・情報を収集し、月ごとの行事・授業予定表を、余裕をもって配布する。	A			
	PTAとの連携	PTAとの連携を深め、本校の支援体制を充実させる。具体的には、マラソン大会での炊き出しや、PTA新聞「くすのき」の発行等を行う。	B			
生徒指導	進路実現を根底に置いた指導の徹底と、立止り一礼の励行	キャリア教育課と連携を図り、職員への進路実現を根底に置いた生徒指導意識の共有と中学生へのアピールポイントとして活用できるようにする。コミュニケーション能力の向上を目指し、相手に応じて敬語を正しく使う指導を徹底する。棒あっぷ運動をより充実した形で継続し、全職員での身なり指導を展開する。挨拶の意義を様々な学校生活の場面で理解させ、生徒の自発的な挨拶をさらに充実させていく。交通安全教室などを学期に1度以上実施し、生徒会活動などから生徒たちの主体的な呼びかけを行わせるよう指導していく。	A	A		学校全体の雰囲気は非常に落ち着いているが、あいさつの活性化などを通じてさらに生徒たちの主体的な活動を促進し、自尊感情の向上を図っていきたい。また、交通事故0を目指すとともに、不登校生徒の防止などSSW・SC・警察・関係機関など外部との連携を積極的に進め、命や人生の大切さについても学期に1回、特に長期休業に入る前に全校生徒に対して呼びかけ、しっかりと指導していく。 学校行事なども新型コロナ感染症前の状況に近くなってきている。学校行事等生徒が積極的に活動ができている場面をふやし、さらなる挑戦ができる環境を作っていきたい。そのことも踏まえてHPやインスタグラムなどでの学校の最新の情報を発信し、生徒募集などにつなげていく必要がある。 また、来年度は地域や小学校、中学校、大学との校種間連携の中核を担っていく。特に中学校とは、生徒募集の観点からも部活動や学校行事など連携型中高一貫教育を推進していきたい。 チーム学校として組織的に指導を行うことができる環境づくりを行い、効果的な指導ができるようにしたい。
	生徒主体型の学校行事を充実	学校行事や部活動などの活動を、生徒会などを中心とした生徒主導で実施させる機会を増やしていく。特に、生徒と職員で校則の見直しを図っていく。新型コロナウイルス感染症防止のため外部への発信は、HPやインスタグラムを活用し、学校のよいPRの場面となるよう更なる充実を図る。また、考査前期間の登校時間帯を利用した交通委員会による登校時の駐輪指導を通じ施錠の徹底などの指導を行なう。	A			
	生徒主導による各部活動の推進と生徒会を中核とした各種委員会などを活性化	毎月の活動計画を作成することにより、毎日の部活動を生徒が自主的・自発的に取り組むことができるように指導していく。また、生徒募集部と連携を図り中学校などとの連携を深める。生徒会・各種委員会・部活動の活性化を図るための検討委員会を作り、校外へのアピール活動を検討し実施していく。	B			
保健指導	美化活動への積極的な取り組みと環境美化に対する意識の向上	美化意識の低下が、感染症拡大にもつながる恐れがあることを理解させ、校内外の美化活動の徹底を図る。	B	A		心身ともにバランスの取れた生徒の育成を目指し、心と身体の健康に留意した生活習慣の確立や健康管理能力の向上を図っていきたい。 新型コロナウイルス感染症等による学校閉鎖や学級閉鎖はなく、教育活動を実施できた。今後も対策として、引き続き感染拡大防止に向けたマスク、手洗い、密を避ける等の対策を教員主導ではなく、生徒の主体的活動（保健委員会の活性化）を促進する（2ヶ月に1回発行）。環境美化においても日々の清掃や美化活動で啓発を行い、意識の向上を図りたい。保健室の利用も落ち着いており、今後も月1回の教育相談委員会や週1回の学年会において情報を提供し、職員間の連携を深め、問題の未然防止と早期発見に努めたい。
	心と身体の健康に留意した生活習慣と健康管理能力の向上	生徒の心と身体の健康教育の充実を図ることによって、健康管理に留意させ、指導へとつなげる。また、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、手洗い、うがいの徹底を図る。さらに、夏季においては、熱中症予防に努め、啓発を行う。	A			
	教育相談活動の充実と支援体制の充実	生徒が抱える様々な健康問題について、各学年、担任と連携し、その未然防止と早期発見に努め、最適な支援を行い、解決を図る。	A			

学校関係者評価

評価（総合）	自己評価は A ： 適切である B ： 概ね適切である C ： やや適切である D ： 不適切である
A	

項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
A	スタディサプリの利用は、個別最適な学習に繋がると考えられるが、授業中の利用を推進しながら、自ら発言できない（手を上げられない）生徒も理解し、活用していく方策を実践していただきたい。
A	イルミネーションの設置が本年度できなかったが、来年度は是非設置させてもらい、生徒の下校時の灯にしてもらいたい。また、PTAも学校の良さを積極的にPRしていきたい。
A	中学校と高校との部活動の連携を進めて欲しい。部活動の専門的な指導者により、地域の子供を6年間育成する連携をお願いしたい。特に挨拶は良い評判なので、行事等を地域と連携しながら実施し、樟風高校のイメージアップを図ってほしい。
A	これからも、感染症拡大防止に取り組みながら、生徒自ら健康管理ができるよう育成して欲しい。

キャリア教育	3年間を通した体系的なキャリア教育の推進による自己実現を目指す能力の育成	学力補充や進路目標別の課外授業の編成・実施により進学・就職への対応力をつけるとともに、「未来への一日」や2年次のインターンシップ等の行事により生徒の進路意識高揚を図る。	A	A		基礎学力の定着・向上にむけた全校一斉の学習時間を設ける取組を実施する。取組の定着のためには、職員の共通理解と生徒の進路希望を加味したプログラム開発が必要である。学年や教科と連携し、生徒が継続的に学習できるプログラムを作成したい。 また、生徒が自己理解に基づいたよりよいキャリア形成ができるよう、3年間を通したキャリア教育計画の見直しを進めたい。 生徒の進路決定満足度100%を目指し、生徒達の第1希望での進路実現を達成すべくキャリア教育課を中心に全職員で取り組んでいく。	A	校内での評価と外部模試等を利用した評価から生徒の現状把握し適切な指導をお願いしたい。アンケート調査により、「将来のことを考えることができるようになった。」という意見がOECDの調査より高い数値であったので、これからも継続してキャリア教育を進めて欲しい。
	有益な進路情報の収集と発信を行い、生徒が進路目標を早期に確立し、積極的にその実現を目指す姿勢の育成	「進路の手引き」を5月に、「進路だより」を毎学期末に発行することにより有益な情報を発信し、適時指導に生かせるようにする。また、多様な入試に対応できるようにする。	A					
	第一希望での進路実現を目標に、指導内容や手だての共有化を継続的に行い、他分掌と連携したキャリア教育の展開	外部模試等の結果を分析し、分析会を実施することにより学年や学科・学系、教科担当との共通理解を図る。また、改善点を検討し、生徒の学力向上や進路実現へとつなげる。	B					
キャリア研修	校内研修の計画的な実施と内容の充実・専門研修等の研修機会の推進	教職員の資質向上のため、今日的教育課題や本校の実態に即した職員研修を計画的に実施するとともに、専門研修等の研修機会を随時提供する。	A	A		来年度は全校一斉の学習時間を設定し、基礎基本の定着と学習意欲の涵養という点で、学習プラットフォームを使った形になる。全職員のICTの研修は今後も系統的・継続的に実施し、授業スキルの向上をめざしていく。教育実習については次年度は希望者がいないが、実習関係の手続きや、担当者への確認などは引き継いでいきたい。次年度は若年研修3年目が1名であるが、学校全体として組織的に研修に取り組ませたい。また、研究授業についてはできるだけ2学期に各教科が終了できるようにしていきたい。 来年度の職員研修会については、本年度の研修会回数を維持しつつ、実践的で効果的な研修の在り方を提案し、実施していく。	A	日頃より、工夫しながら授業に取り組まれてあるが、授業アンケート等を通じ、その内容が生徒に反映または還元できるよう取り組んで欲しい。
	人としての生き方を考え、豊かな心を育む「樟風の10分間」の推進	放送委員会と「樟風爽やか講話」（7回）、文化委員会とWeekly News Digest（6回）、図書委員会と「朝の読書」を協力して実施する。	A					
	ICTを活用した研究授業とAL(アクティブラーニング）を推進した研究授業の計画・実施	教育実習を計画的にすすめ、実習生の人間形成と教師としての資質向上につながるように担当教員で協力しながら指導する。	B					
	授業アンケート・授業参観週間での授業評価の実施と各教科の課題解決の推進	各教科がICTやアクティブラーニングについて活用を図り、「授業が変わる。授業が分かる。学力アップへの道！」へとつながるように授業改善を推進する。	A					
	授業アンケート・授業参観週間での授業評価の実施と各教科の課題解決の推進	新課程を踏まえた授業改善の取り組みについて各教科で検討を行い、評価の充実を図るとともに、授業アンケートや授業参観週間を活用による授業改善を推進する。	B					
生徒募集	本校生徒の活躍や学校生活の様子の効果的な情報発信（リニューアルHPの積極的活用）	リニューアルされたHPやインスタグラムを活用して、本校生徒の進路実績や資格取得状況、学校生活の様子、学校行事などを情報発信する。HPは毎月、インスタグラムは月に2～3回更新する。	A	A		連携型中高一貫教育への取組も積極的に実施することで、志願者増加につなげたい。また、在校生が積極的に広報活動を行うことで、志望者が増えたという実績がある。若い世代に人気のTikTokを活用しており、本校でもそのような活用ができないか検討していきたい。HPの更新については、週1回の更新とPTAや同窓会等の情報も発信できるよう取り組んでいく。 中学生の体験入学を2回行い、うち1回を文化祭と同時開催にできないか、関係各分掌と連携しながら、検討したい。 出身中学校ごとに生徒の写真を撮り作成する樟風ポスターを、今後も継続して行う。あわせて、進路が決定した3年生を出身中学校ごと、進学・就職別に、出身中学校へ報告ポスターを作成したい。	A	樟風高校の様々な取り組みや魅力を、HPやSNS等を利用し、樟風高校の良さをもっと発信して欲しい。
	中学生に対する本校の特長・魅力の説明と有為な情報の提供	中学校における高校説明会や進路学習会では、本校の特長や魅力の説明ばかりでなく、中学生にとって有為な情報（中学生としてやっておくべきこと、高校入試情報、高校生活とはなど）も提供していく。	A					
	在校生からの情報や生徒の諸活動を活用した生徒募集	「本校生の生の声」として、在校生から本校の雰囲気や様子、高校生活満足度などの情報を収集し、6月頃の中学校訪問に活用する。在校生自身がインスタグラムを月1回程度投稿し、PRする。	B					
教育の情報化推進	ICT利活用の推進と学力の定着・向上	ICTを活用した「主体的・対話的な深い学び」の研究・実践について、情報を収集・発信するため、研修課と協力して、各教科で年に1回はICTを活用した研究授業を実践してもらい、効果や苦労した点の情報を収集・分析し、職員に発信する。	B	A		生徒の一人一台端末については無事完了することができたが、各クラスの状況を見ていると活用具合は10%にも満たない程度である。大型提示装置の活用は80%の授業で活用されているが、年2回の定期的なICT研修会に加え、Google for Educationの積極的な活用方法について、ICT支援と協力し積極的に発信し、具体的事例における効率化について提示し、稼働率50%を目指していきたい。 機器管理については、所在不明になることがあり、使用ルールの徹底を図るとともに、どのようにすればルールを遵守に努めたい。	A	PCの導入により、今まで以上に授業での活用方法の充実が求められると感じている。PCを1つの道具として教育活動が推進されるよう取り組んでいただきたい。
	職員の活用スキルの向上を図るための研修や支援	ICT機器や情報を活用できる職員を増やすため、学期に1回程度の校内研修を実施する。学習指導や進路指導に役立つ情報や、機器の使用方法などの情報を精選し、学校ポータルを活用し、随時適切な情報を発信する。	A					
	ICT利活用のための環境	昨年度から導入されたタブレットPCについて活用を推進するため、使用貸出簿をエクセルで管理し毎月の使用状況について学校ポータルを通じて案内することで、不都合なく使用できる環境を維持し、活用を促進する。	A					
1学年	教員・生徒間の人間関係の構築および主体性の確立	身だしなみや挨拶の励行を、3年後の社会人としてのあるべき姿の完成形の基礎作りとして生徒自身が意識するよう指導する。	A	A	A	基本的生活習慣においては、2学年次は出席率95%を目指す。また修学旅行もあるため時間の厳守や協働活動も維持できるように指導していく。 学習指導においては1人1台端末が完了したため、活用は必須になると考える。スタディサプリの活用方法を教員が学び、生徒が活かせるようにしたい。また、就職試験等でも一般常識やSPIが出題される企業も多いため、2学年次では一般常識等の基礎学習の定着を図れるような学習時間を確保したい。ボランティアにおいては学年でのボランティアを時間を設けることができなかったため、2学年次でも最低2回以上はボランティア活動に取り組むことができるように計画していきたい。 2者面談についても学年独自で1回以上はできるよう設定していきたい。総合的な探究の時間では、生徒が課題発表で十分にまとめる時間が確保できるよう、内容を精選し計画をしていく。 国公立を含め4年制大学を希望者している生徒への指導を、キャリア教育課と連携し、進路実現に向け取り組んでいく。	A	コロナ禍の影響により、樟風高校へ入学後、生徒同士のコミュニケーション不足が心配されたが、徐々に行事等が進められていることから、集団生活への対応力が身についてきているのでは感じられる。来年度は挨拶をはじめ、樟風校生らしさを身につけるとともに、進路選択を踏まえ、細かに行っていただきたい。
		服装の乱れる生徒には注意をするだけでなく、話し込みを行い、生徒が主体的に直す姿が出るよう指導を工夫する。	A					
		清掃活動を徹底することで、学ぶ環境、共有する環境をつくり、他者を思いやる気持ちを涵養する。	B					
		養護教諭、SSW、SC及び保護者との連携を密にし、生徒一人ひとりの情報を共有し、課題の解決を図る。	A					
	進路を意識した授業規律の確立	教科担当者と担任が情報交換を密にし、粘り強く指導しながら課題の提出を徹底する。	B	A				
		5分前行動を心掛け、時間を守るよう意識付けを行う。	A					
		友達・クラス・学年間で情報を共有しながら、協働し授業に臨む姿勢を養う。	A					
		学習環境を整える。定時制との共有教室であることを意識させ、終礼後は机の上や中に物を置かせない。	A					
	基礎学力の充実及び思考・判断・表現できる生徒の育成	様々な物事を主体的に思考する姿勢を身に付けさせ、物事を論理的に表現する機会を設ける。	B	A				
		成績不振者に対する補講等を計画的に実施する。	A					
		アダプティブラーニングの推進を進めるためにも、授業で困っている生徒を学年が把握し、授業担当者と協力しながら、生徒全員がわかる授業を展開する。	A					
	学校・地域を意識できる生徒の育成及び進路意識のの育成	キャリア教育課との連携を深め、3年間を見通した計画的な進路学習を行うことで、進路意識の向上を図る。	A	B				
		学年独自でボランティア活動を最低2回以上は取り入れ、愛校心を育み、地域に愛される集団を目指す。	B					
		2者面談を学年で実施し、進路についての意識付けを行うとともに、3者面談の際には保護者にも早い段階から進路意識を持ってもらうよう工夫していく。	B					

2学年	主体性の確立と基礎学力の定着	出席を常に意識し、出席率95%以上を維持するように心掛け、安易な遅刻、欠席をしない意識と態度を育てるとともに、手帳を活用し、記録することで、実行に移す自己管理能力を育てる。	B	A	A	出席率95%以上を維持するように心掛ける。遅刻や欠席、健康管理に各自で気をつけるとともに、時間厳守でまとまって行動できるように指導していく。 生徒と面談等を行い、それぞれの進路実現に向けて取り組む内容を明確にし、総合的な探究の時間等を活用し、受験の時期や内容を含めた具体的な計画を立てて実行させる。また、全員が進路実現できるような雰囲気作りを行う。生徒の進路別の対応について、教員側が情報共有を行い、個別の対応ができるように学年での役割分担を行い指導を進めていく。 各種行事のリーダーとして活動し、最上級学年としての自覚を持ち、発言や行動ができるように指導していく。学校行事だけではなく、クラス、学年においても自分達で意見をまとめ、計画を立て、実施することができるように促す。 進路指導においては、「安易な進路選択をさせない、最後まであきらめない。」など精神的な支えを学年全員で行い、キャリア教育課と連携を密にし、生徒達の希望進路実現に努めていく。	A	本年度は、コロナ禍ではあったが、修学旅行や学校行事等が実施され、様々な経験を通して、達成感が感じられたのではと思われる。来年度は、最高学年として、樟風高校を牽引していけるように、ご指導いただきたい。
		平素の授業を規律と活気あるものとし、学力の向上に努め、成績不振者に対する個別指導や補講等を計画的に実施する。各学期に考査に向けての目標設定をさせる。	A					
		教室の整理整頓および清掃の充実を通して、学習環境を整える。	A					
		それぞれの進路に応じた学力補充を行うとともに、積極的に参加する。	A					
	規範意識と協調性の確立	頭髪服装規定等の校則が持つ意義を理解させ、身を律する態度に繋げさせる。校則の見直し等についても生徒から呼びかけを行うように指導する。	A	A				
		授業や学校行事で協働活動を取り入れる中で、協調性を涵養する。	A					
		学校行事や部活動への積極的な参加を促し、学校生活に達成感や充実感を感じることができるようにする。	B					
		挨拶の励行を通じて、他者との関わりやマナー意識を向上させ、より豊かな学校生活に繋げていく。	A					
	進路意識の育成	キャリア教育課と連携し、2年間を見通した計画的な取り組みを行うことで、進路意識の向上を図る。朝10分ドリルを週2回実施する。	A	A				
		学年通信や進路便りを活用し、保護者との情報共有を図る。	B					
		HR活動や学年集会を活用し、進学・就職の推薦規定や合格、採用条件について理解させる。	A					
3学年	進路実現に要する学力の育成	平素の授業や課外において、多岐に渡る進路に合わせた内容を学び、進路実現を成し得る力を身に付けさせる。	B	B	A	本年度の就職試験では、筆記試験を重視する企業が増えてきている。対策として基礎学力の定着と同時に数的推理や判断推理についての指導の必要性を感じている。また進学については、最後まであきらめず、やり遂げる生徒の姿が見られた。 次年度からは、授業内容や考査の見直しおよびスタディサプリを活用した取り組みを通して、進路を勝ち取るための学力の養成を目指して行く。自己管理能力の育成については遅刻や欠席を繰り返す生徒に対して、改善するための方策を生徒自身に考えさせ、自ら改善に努める姿勢を育成し、遅刻欠席を克服させた。また、保護者と連携をし家庭での生活の様子など情報交換を行い、実社会で求められる主体性と協調性について指導し、社会との関わりをより身近に感じさせ、その能力の育成を図る。	A	コロナ禍での高校生活において、担任の先生方をはじめ、多くの先生方に、様々なご指導をいただき感謝している。卒業後もご支援をお願いしたい。
		各学科における資格取得を各科で奨励し、より高次の取得に向けて授業や補講などで対策をとり、その資格取得を目指す。	A					
		外部の模擬試験を指針として、志望する大学入学試験の合格ラインを越えられる学力を身に付させる。また、入試傾向を捉え、小論文やポートフォリオの指導の充実を図る。	B					
		個人面談を適宜行い、生徒の希望と能力を常に把握し、担任会や学年会などを利用するとともに、各教科担当にも協力を仰ぎ、情報交換を密にすることで、より個々に対応した指導助言を行う。	A					
	生涯を自律して生きるための自己教育力の育成	遅刻や欠席については個々の状況に応じたきめ細かい指導を行うことで自己の調整能力を確立させる。	B	A				
		社会人としての在り方を常に意識して、主体的に身だしなみや挨拶等を励行する。	A					
		授業や集会時に話を聞く姿勢を保ち、内容を理解し自己啓発に繋げる。	A					
	生涯を自律して生きるための自己教育力の育成	遅刻や欠席については個々の状況に応じたきめ細かい指導を行うことで自己の調整能力を確立させる。	A	A				
		社会人としての在り方を常に意識して、主体的に身だしなみや挨拶等を励行する。	A					
		授業や集会時に話を聞く姿勢を保ち、内容を理解し自己啓発に繋げる。	B					
普通科	生徒の適性に応じた学系の選択	学系選択にあたっては、早期に説明会を開催し、生徒・保護者が希望進路や適性に応じて選択できる期間を保障する。	A	A	A	1年次は共通、2年次より各コースが特色あるカリキュラムを設定し教育活動を行っている。情報コースや看護福祉コースにおいては、学年が進むに伴い、専門的な知識と技能を身につけ、様々な検定や資格を取得している。また、総合コースや文理コースにおいては、進学に向け少人数または習熟度別にクラスを編成し、きめ細やかな指導を行っている。 来年度は現在行っている指導内容を更に充実させ、コースの特色に応じた進路決定が行えるよう、学年・キャリア教育課と連携し取組んでいく。特に文理コースにおいては、4年制大学への進学、総合コースは幅広い進路希望があるため、早期に2者面談や保護者面談を決定し、決定後も面談等を利用継続的な指導を行っていく。生徒一人一台のパソコンが整備されたことから、授業中の利用だけでなく、一斉学習時間にスタディサプリを利用し、生徒が学習の目標を立て自ら取組む姿勢を育てる。	A	本年度も幅広い進路に対応していただいている。来年度は文理科がなくなり、文理コースとしての1期生が卒業を迎えることから本年度同様手厚い指導をお願いしたい。
	学習習慣の確立と基礎学力の定着	学年・教科との連携を密にし、生徒の実態を正確に把握し、効果的な取り組みを行う。また、校外模試等を有効に活用し、学習意欲と学力の向上に繋げる。	A					
	早期の進路意識の高揚	個人面談による進路相談や面接指導、作文（小論文）指導等を計画的に実施する。また、総合的な探究の時間やHR活動等を通して、職業観の育成を図る。	B	B				
	資格取得の奨励	各教科と連携し、学習意欲と学力の向上に繋げるための資格取得を奨励する。 また、授業や課外、放課後の学習会等を活用して、検定合格率を上げる。	B					
住環境システム科	専門教科（実習等）を通した「ものづくり実習」の充実	ものづくりへの興味・関心を喚起し、より実践的な実習を行い、ものづくりを通しての人づくりを目指していく。	A	A		次年度も新型コロナウィルスの影響が心配ではあるが、資格取得やものづくりなどの作品製作の充実を図り、より高いレベルの技能・技術を習得させていきたい。また、地元企業と連携・協力してインターンシップや組子実習、家具製作実習等をより充実させていきたい。進路実現に向けた取り組みを早い段階からしっかり指導していく。 本年度のジュニアマイスター顕彰制度による表彰で、特別賞1名、ジュニアマイスターゴールド7名、ジュニアマイスターシルバー10名、ジュニアマイスターブロンズ10名であり、来年度も本年度以上の結果が出るよう指導していきたい。		A	授業や職場体験で製作した作品を市庁舎等に展示してあるが、広報活動を強化し、住環境システム科がどのような学科で将来どのような道に進んで行くかを地域へ広めて欲しい。
	産学官連携事業の更なる推進と専門性への目的意識を高め、将来の進路選択の一つとする。	産学官連携産業人材育成事業を通して、各専門教科への興味・関心や進路意識を深め、より高い専門意識を持たせる。	B					
	積極的な資格試験の受験と実用的な資格試験の導入を行う。	専門性への目的意識を持たせ、実社会に通用する資格を導入し、より多くの合格者を目指す。	A					
文理科	学習習慣の確立	教科間のバランスがとれた学習習慣を身に付けさせると同時に、自己分析や学習計画を主体的に行う力を身に付けさせる。	A	A		文理科が今まで育んできた取組みを普通科文理コースで引継ぎ、改善を加えながら、生徒一人ひとりの希望進路が実現できるよう活動していく。そのため、早期に将来の希望職種を考えさせ、それに対応した大学選びを生徒・保護者・教員の連携を図りながら進める。また、推薦入試の募集定員は拡大されている状況であるため、推薦入試を活用して第一志望校の受験も選択肢の一つとして考えることも加えて指導していく。		A	本年度で閉科となるが、今まで積み上げたものを普通科文理コースへ引継ぎ、充実した教育活動を実施していただきたい。
	希望職種に基づく大学進学の意義の理解	将来のビジョンを描き、大学で学びたいことを自己探求する機会を作り、具体的な目標設定と、実現するための取り組みを主体的に考え実践する。	B					
	基礎学力の定着と応用力の養成	教科担当者と連携して、スタディサプリやICT機器を有効に活用しながら、分かる授業を心掛けると共に、個に応じた主体的な学びに繋げられるように基礎作りを行う。	A					
	大学入学共通テストに対応する指導の充実	授業や課外、その他教育活動全般で「思考力」「判断力」「表現力」を涵養し、一般選抜でも課される記述力対策の機会を充実させる。	B					
	進学意識の喚起と実現に向けた指導体制の構築	担任からの情報発信や模試分析などにより、キャリア教育課、教科担当、担任で情報を共有し効果のある学習支援を行う。	A					
事務部	教育重点目標達成のための事務部業務の推進	教育重点目標を意識した、効果的な予算編成・執行を行う。	A	A		事務部においても、連携型中高一貫教育が本格的に開始されることを認識し、円滑で遺漏のない業務引継ぎを行い、なお一層、教育目標の実現に貢献できる事務部を構築することが課題である。		A	引き続き円滑な業務をお願いしたい。
		各分掌との情報共有を推進し、教育重点目標を達成するための事務処理を行う。	A					
		生徒、保護者及び来客への対応や電話応対を丁寧かつ的確に行う。	A					

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

・魅力ある学校づくりと校種間連携の推進 （生徒中心の学校行事、特色ある学系、部活動、ボランティア活動の推進）
・安全で安心な教育活動をとおした自分磨き （笑顔で挨拶、爽やかな清掃、高度で多様な資格取得）
・ICT教育の推進 （授業が変わる・授業が分かる・学力アップへの道、学習支援アプリの有効利用）
・キャリア教育の更なる充実 （進路の手引きの有効活用、着実な進路実績）
・

評価項目以外のものに関する意見

来年度から連携型中高一貫教育が始まるが、中学生が樟風高校に行きたい、楽しみたいと思うような魅力ある学校にしていただきたい。